

第1学年 音楽科学習指導案

日 時 平成24年11月8日(木)

学 級 1年5組(男子20名 女子14名 計34名)

授業者 教諭 吉川 由美子

1 題材名 アルトリコーダーで旋律をつくろう

2 題材について

(1) 題材について

本題材は、表現の指導事項(3)ア「言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。」から設定する。

また、共通事項ア「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。」のうち、以下の点について焦点化を図って設定する。

「リズム、旋律、動機を基にした反復・変化などの構成」について、それぞれの要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きによって生み出される特質や雰囲気を感じ受すること。

本題材では、「リズム」、「旋律」、「動機を基にした反復・変化などの構成」を知覚し、それらの働きから生み出されるよさや美しさを感じ取り、自分なりのイメージをもって、それらの働きを生かし工夫して、簡単な旋律を創ることをねらいとしている。

作品は4小節の曲を創ることとし、3小節目には動機の1小節目の「反復」、4小節目には動機の2小節目との「変化」を用いて、旋律創作をおこなう。

小学校の音楽づくりでは、「反復、問いと答え、変化」などの音楽の仕組みを生かし、音と音とを関連付けて「このような音楽にしよう」といった意図をもち、見通しをもってまとまりのある音楽をつくるようにすることや、即興的な表現に生かす方法を考えたりして、表現の工夫をできるようにすることが大切とされている。この経験を生かしながら、短い旋律づくりに取り組みせ、生徒が創作する楽しさや喜びを実感させたい。

(2) 生徒について

音楽の時間の活動について、意欲的な生徒が多い。小学校では全音符、2分音符、4分音符、8分音符、4分休符、8分休符、その他の記号などについて学習しているが、音高の表し方や拍子記号の意味なども含め全般的に定着が不十分である。そのため、自分の創ったものを記譜することや、「音楽づくり」の経験を生かして旋律を創ることは課題がある。これからの創作の学習や表現・鑑賞の学習をするうえで、音楽を構成する原理を体験的に学習することは、学習の基礎となっていくことから、不十分な事項を身に付けていく必要があると考える。

このことは、本研究で、音楽科の目指す生徒像である、音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ受して、音楽活動を通して理解を深めることのできる生徒の育成につながっていくことであり、学んだことを生かして表現を工夫したり、感じ取ったことを自分なりの言葉で説明できる力を付けさせたい。

(3) 指導について

本題材では、最低限必要と考えられる事項(4分音符、8分音符、4分休符を使ったリズム、4分の4拍子、ハ長調の音階、ト音記号の場合の記譜の仕方、動機の動き)について絞って教えること、創作上での条件を限定し、明確にすることを意識することで、創作への抵抗感を減らしねらいを達成させたい。

今回の授業では、既習曲を聴いたり、演奏したりすることを通して、「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」の働きや役割について感じ取らせ、それらを言葉で表したり、自分の創る旋律に生かしたりする。また、「長音階」「音符と休符」「拍子」「動機」について学

び、旋律の創作に入っていく。特に「動機」については、音楽としての最小の単位であり、まとまった旋律を創るうえでの大切な要素である。具体的に曲を聴いたり演奏したりすることで、「動機」がもつ働きを知覚し、旋律づくりの実感を感じ取らせたい。

また、それぞれが創作したものを、お互いに聴いたり、楽譜を見て気付いたことを話し合ったりしながら、よりよい表現をするにはどのような工夫ができるかなどを考えさせていきたい。

3 題材の指導・評価計画（3時間）

(1) 題材の評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
① 「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」に関心をもち、それらの働きを生かし工夫して、簡単な旋律を創る学習に主体的に取り組もうとしている。	① 「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」を知覚し、それらの働きによって生み出されるよさや美しさを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律を創るかについて思いや意図をもっている。	① 「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」を知覚し、それらの働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律を創っている。

(2) 時間ごとの指導・評価計画

時	学習内容	学習目標	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「動機に続く2小節を創る活動」に必要な事項のうち、4分音符、8分音符、4分休符を使ったリズムについて確認し、リズムづくりをする。 ○ 「ハ長調の音階」について学習し、簡単な旋律模倣をしたり、創ったリズムに、ハ長調の音を付ける。 ○ 「動機を基にした反復・変化などの構成」の働きや役割について知る。 	「動機」の働きを生かし工夫して旋律を創ることの見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」の働きに関心をもち、それらの働きを生かし工夫して、簡単な旋律を創る学習に主体的に取り組もうとしている。 (観点1-①) 	ワークシート 観察
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「動機」の反復について理解し、反復して創る。 ○ 用いる音符やリズムについて確認する。 ○ どのようなイメージにしたいかを発表する。 ○ 創ったものがどんな感じがするか確かめる。 	「動機」の動きを生かし工夫して、動機に続く旋律を「反復」を用いて創作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「動機」に続く反復を感じ取り、創作の工夫をしている。 (観点2-①) ・ 「動機」の反復の特徴を生かして、創作している。 (観点3-①) 	ワークシート 観察 発言内容
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「動機」の反復について振り返る。 ○ 教師が提示する例を基に、「動機」の変化について理解する。 	「動機」の働きを生かし工夫して、動機に続く旋律を「変化」を用いて創作する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「動機」に続く変化を感じ取り、創作の工夫をしている。 (観点2-①) 	ワークシート 観察 発言内容

○ 「動機」を変化させて、旋律を工夫し、自分のイメージに合うように創る。 ○ 創作した作品をお互いに聴き、「音楽の構成等」を用いて清明する。 ○ 完成した作品を発表し、お互いの工夫したところやよさについて意見交換する。		・「動機」の変化の特徴を生かして、創作している。 (観点3-①)	
---	--	-------------------------------------	--

4 本時の指導

(1) 目標

「動機」の働きを生かし工夫して、動機に続く旋律を「反復」を用いて創作する。

(2) 評価規準

- ① 「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」を知覚し、それらの働きによって生み出されるよさや美しさを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように旋律を創るかについて思いや意図をもっている。(「動機」に続く反復を感じ取り、創作の工夫をしている。)ー音楽表現の創意工夫ー (創作)
- ② 「リズム」「旋律」「動機を基にした反復・変化などの構成」を知覚し、それらの働きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて簡単な旋律を創っている。(「動機」の反復の特徴を生かして、創作している。)ー音楽表現の技能ー (創作)

(3) 本時の展開 (評価の○は本時の目標にかかわる評価、●はその他の評価)

段階	学習内容	形態	指導上の工夫及び留意点	評価(観点、方法等)
導入 10分	1 前時で学んだ動機と、動機に続く旋律の反復・変化による特徴を振り返る。	一斉	・ 「動機の反復」は、リズムと旋律を繰り返して創られていること、「動機の変化」は、動機の一部のリズムや旋律を変化させて創られていることを確認する。	
	2 本時の課題を確認する。	一斉	・ 動機の1小節目を反映させることを提示する。	
音楽のつくりを生かし、「動機」を反復させて3小節目を創ってみよう。				
展開 35分	3 創作に必要な「音楽の構成」を確認する。	一斉	・ 用いる音符や休符を限定する。拍子も確認する。(リズムカードの準備)	
	4 これから創る旋律について見通しをもち、どのようなイメージにしたいかを発表する。	一斉	・ ワークシートを用いて説明しながら、反復・変化による特徴を生かすことを確かめる。	

展 開 35分	5 教師が創った簡単な例を示して、「動機の反復」について説明する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動機の1小節目のリズムや旋律が繰り返されることを、楽譜を使って説明する。この部分を実際に音で提示し、感じたことを発表させる。 ・ 発表させながら、「動機の反復について理解できているかを確認する。 	○評価規準① どのように旋律を創るか思いや意図をもっている。(観察) ○評価規準② 「動機」の反復の特徴を生かして創作している。 (ワークシート)
	言語活動：感じたことを発表する。活動⑥			
	6 「動機の反省」を生かして3小節目をつくる。	個人グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は、リズムを反復させることを指示する。(音は変える。) 	
7 お互いの作品を聴いて、感じ取ったことを学んだことを用いて説明する。 (言語活動)	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の創った旋律がどんな感じがするかを確かめながら、言葉で説明させる。 		
言語活動：お互いの作品を聴いて感じ取ったことや学んだことを発表する。活動⑥				
終末5分	8 本時を振り返って、学んだことなどを記述してまとめる。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習課題から振り返り、学習のキーワードを整理して考えさせる。次時の学習内容を知らせる。 	